

編集後記

「コロナ禍」がありふれた日常の言葉として使われるようになって、ほぼ2年が経ちました。遠い将来、今号を手にとって読む人のために述べれば、新型コロナウイルスがこの2年間、猛威を振っています。その間隙を縫って、当学会の総会・研究発表会が昨秋、2年ぶりに開催されました。人文科学はテキストと対峙することが多いという意味では、コロナ禍で研究が妨げられることが比較的少ないかと思いますが、成果発表の議論の場を対面で実現できたことには、大きな意義があったと思います。かくなる筆者もパンデミックの障壁を飛び越えて、16世紀のドイツを逍遙し、500年前の人間模様を観察しています。今号に寄せられた多くの論文が、会員の変わらぬ活発な研究活動を物語っています。今後もこの機関誌が思索を巡らす一助となれればと願っています。

編集委員：工藤康弘（責任者）、柏木貴久子、齊藤公輔

当学会誌の編集方針

1. 本学会誌の内容はドイツ語圏の言語・文学・文化およびドイツ語教育に関する論文、マルジナリア、書評、翻訳、エッセイなどとし、原則として会員からの投稿とする。ただし、編集委員が会員以外に特別に原稿を依頼することがある。その他に、シンポジウム報告、修士論文要旨、学生の優秀論文要旨、卒業論文題目一覧、本学会の行事記録、前年度の会計報告を掲載する。
2. 投稿原稿の採否は編集委員会が行う。その場合、査読を編集委員以外に別に委嘱することがある。
3. 執筆要領は別に定める。
4. 投稿希望者は予定題目とその概要を期日までに編集委員会宛にあらかじめ提出しなければならない。詳細は執筆申し込み要領を参照のこと。

独 逸 文 学 66

2022年3月20日 発行

関西大学独逸文学会

編集兼
発行者

吹田市山手町3-3-35

関大独文研究室内

電話・大阪(06)6368-0324

郵便振替口座

00910-5-116831

口座名称

関西大学独逸文学会

印刷所

株式会社 田中プリント

(非売品)